

敗血症の分子薬理学的解釈

◆講師: 松田 直之 先生

(名古屋大学大学院医学系研究科
救急・集中治療医学分野/教授)

Prof. Naoyuki Matsuda

(Department of Emergency and Critical Care Medicine,
Graduate School of Medicine, Nagoya University)



◆日時: 平成28年9月28日(水) 17:30～

September 28 (WED) from 5:30 p.m.

◆場所: 医学教育図書棟3階 第2講義室

Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

【はじめに】敗血症の定義が、2016年2月に「臓器不全を進行させる感染症」として変更された。1992年に公表された「全身性炎症を導く感染症」からの定義の変更は、全身性炎症の診断基準の作成が難しいことによる。本講では、この敗血症で進行する臓器不全の機序を分子薬理学的視点より考える。

【内容】本講は、主に以下の内容で構成する。1. 敗血症におけるリガンド・受容体反応 (Toll-like 受容体, TNF 受容体, IL 受容体, RAGE, protease activated receptor, TGF 受容体など), 2. 転写因子の役割 (NF- κ B, AP-1, STAT3, NFAT, Smad), 3. 敗血症と血管内皮細胞障害の分子薬理学的機序, 4. 敗血症におけるARDS 進展の病態生理学的特徴, 5. 敗血症における心筋障害の病態生理学的特徴, 6. 敗血症における播種性血管内凝固の病態生理学的特徴, 7. 敗血症における好中球機能低下の病態生理学的特徴。

【おわりに】敗血症の病態生理は、リガンド受容体反応として、さまざまな臓器において解明されてきた。この臓器不全の進展を阻止するための概念を皆で考察したい。

◆担当: 救急・総合診療医学 笠岡 俊志教授/Prof. S. Kasaoka

(Department of Emergency and General Medicine)

◆レポート宛先/Essay (笠岡教授宛/To Prof. Kasaoka): kasaoka@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

◆レポート宛先/Essay (CC: 医学教務/Student Affairs Sec.): iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp